

『歌経標式』の和歌観

野田浩子

——導き出されたへこころ——

—

第二特集・古代の歌学
歌学の要請される氣運は既に『万葉集』の中に見られる。歌集の成立そのものが既に一つの歌学の存在したことを示すものであることは、その分類や配列に見ることができるが、さらに左注等に批評意識を窺うことができる。⁽¹⁾ 歌句の添削を試みたり、防人歌の採歌態度、あるいは「山上の操」に似る、「擬古の作」などという歌風に対する意識、反歌や和歌がそれらしくない、あるいは題詞のいうところや部立分類に合致するかどうかの疑義や注者の理解を示す語句などを窺わせるなど、さまざまな歌学の要素としてのそれである。しどはそれであるし、有名な「山柿の門」言及は歌学びの存在したこ

藤原浜成作として、一人の人間の手になる統一的意図をもつものである。歌を基準を立てて捉えようとする。それは中国詩学に基づいたため、韻にその基準を求めた。そのため歌そのものの評価の基準たり得ず歌学書としての評価は極めて低いと言われる。⁽⁴⁾ 『万葉集』中に見られる歌学の萌芽ともいうべき左注等には韻に関するものは見られない。歌経標式はその点では『万葉集』を継承したものではない。が、韻こそ歌の歌たる所以（韻者、所以異於風俗之言語、長於遊樂之精神者也）としながら、歌体の分類に於ては韻のみに收めきれず新古の対比、あるいは「直語」という語（中国詩学にその用語や求めるができるという）を用いて喻の問題に及んだりしている。にあるものではない。憶良に「類聚歌林」があつたこと、雜歌・相聞・挽歌の部立、寄物陳思・正述心緒という分類をもつ卷々の存在、あるいは万葉集の資料となつたと思われる歌集の存在などにその可能性は考えられるが、『万葉集』が現存の二十巻本として、いつどのように成立したかについては未だ不明の点が多いという事情もあって、『万葉集』という歌集の成立という点での統一的な批評

意識なり歌学なりの指摘は難しい。⁽⁸⁾

たのか。六朝詩学の隆盛が韻の問題にあり、それが詩学として最高のものであり、歌を中國詩と同列に並べるために韻に依つたのか。もちろんそのようなことは学としての最初の試みであれば当然起り得ることではある。しかし二國の言語の違いは認識されていなかつたはずはない。それを全く無視したものであれば、むしろ韻のみで統一し、学のための学として（たとえ歌そのものから全く離れたとしても）成り立たることはできたはずである。分類、整理等、学としての体系はその統一性に於てこそ要請されるものである。韻に依りながら喻の問題など持ち出さなければならなかつことは、それなりの必然があつたはずである。それは浜成の和歌観にかかわるのではないか。まずそのあたりを手がかりに歌経標式の和歌観を探つてみることにする。

二

『歌経標式』序文に浜成は言う

原夫歌者、所以感鬼神之幽情、慰天人之恋心者也。

と。歌は「幽情」を感じしめ、「恋心」を「慰」むるものだと。「鬼神」は既に先学が指摘されるように『詩經』大序に基づくものであろうが、浜成はそれに「幽情」を加え、中國詩学に特にこれと思われる出典を見い出し得すにいる「天人之恋心」を対にし、「慰」むるとしている。「天人」は「テンシン」と訓み、天と人の意で、「恋心」は神も人も懐くものということになる。「幽情」とは諸橋『大漢和』によれば「静かなる心情。風雅な情懷」だという。また「幽」には鬼神・心の意もあり、無形無声の意もあるから「鬼神之幽情」とは目に見えぬ、形として捉えられぬ天地自然の心を言うの

であろうか。ともかく「幽情」、「恋心」と「こころ」を特に加えねばならなかつたことに浜成の和歌観が窺えるのではないか。「慰天人之恋心」は神も人も懐く満たされず求むる心^心を慰めることである。浜成は言う、
故有龍女婦天孫贈於恋婦歌、味耜昇天会者作称威之詠。

並尽雅妙音韻之始也。

とあって、韻を見事に押された歌として勝れたものとして持ち出されているのであるが、海に帰る豊玉姫に贈った彦火々出見尊の歌^歌と死人天雅彦に間違えられて大いに怒り昇天した味耜高彦根神の威を称えて喪に会した者が歌つた歌^歌を挙げているのでこの二首から「恋心」なるものを読みとることもできる。前者はいわゆる恋歌であるが、後者は、「称威」によって味耜高彦根神の怒りを「慰」めたことになる。死者と間違えられた怒り、いわば自己の自己たることを証し得ぬところから来る怒りあるいは憤懣である。それをも含めて「恋心」としている。あるいはこれが「鬼神之幽情」とも読みとれる。その場合は「慰—恋心」の例歌が先で、「感—幽情」の例歌を後に挙げたことになる。そして「感」とは「慰」（味耜高彦根の怒りを鎮めた）の意となる。ともかく、浜成にとつて歌を考えるに「こころ」をとり出さねばならなかつたということである。

また、「原夫歌者」に対応させて

近代歌人雖長歌句、未知音韻。含他悦懃猶無知病。准之上古既無春花之儀、伝之來葉不見秋实之味。無六体何能感慰天人之際者乎。

と近代の歌が「感慰天人」の効力を失つてゐることをいう。歌がだ

めになつた。それは音韻を知らぬからだという。韻を問題にするのは歌を中国詩と同列に並べようとすること、即ち自国内のものとしてではなく世界的な位置づけをすることである。しかし中国語と日本語の言語の違いはいかんともしがたい。それは先学の言われる通り、『歌經標式』が歌そのものを捉えられなかつた失敗作といふことになるのであるが、同時にこのように試みることでとり出されて来たものもある。つまり韻を問題にすることで「ことば」がとり出されたものもある。「ことば」がとり出されたことが「ことろ」をはじき出すことになる。後述する喻の問題も、先に述べた「幽情」「恋心」という語を加えたことも、このことにかかわる。「ことろ」がとり出されたのは韻に於ては明解にではない。「ことば」がとり出されただとしても浜成に於ては明解にではない。「ことば」がとり出されただのは韻に於てである。日本の歌は韻を必然のものとしていたわけではない。にもかかわらず、上古には雅妙の音韻による秀歌があり、それが今はだめになつたというのである。歌が韻を必然のものとしていたのではないのだから、上古にも韻の上からはまずい歌もあつたはずである。それを上古は良いというのは今のがだめだという認識が浜成にあつたということである。近代の歌人は歌句に長ずるにもかかわらず歌がだめだというのは「ことろ」の問題がかかるといふ。これが今はだめだといふのは「ことろ」の問題がかかるといふ。これこそ『歌經標式』の意味であり、それは「勝宝以後」⁽⁴⁾といわれる恐怖政治の時代を生きぬく韻晦であった、といわれる。『歌經標式』が韻こそ詩歌の詩歌たるものとしながら韻のみで統一せずに喻にこだわらざるを得なかつたこと、「感鬼神之幽情」「慰夫人之恋心」に見られる歌の認識などが、山口氏の如く考えれば極めて素直に納得がいく。

韻者所以異於風俗之言語、長於遊樂之精神者也
と詩歌の詩歌たる以所を韻に求め、
故建新例則折韻曲、合為一卷、名曰歌式。

と述べ韻によつて歌の蘇生をはかるべく、避けるべき歌病七をたて、歌体に韻を求める。これがこの本の意義であるといふ。対象化しているのは「ことば」である。

浜成が甲第（進士の試験における最優秀者即ち歌の最高のもの）と称えられるのが譴誓⁽⁵⁾（謳誓・謳誓）である。「言隱露情」と説明があり、例歌によればなぞ歌の一種である。

祢須弥能伊弊　与祢都岐不留比　紀呼岐利互　比岐々利伊隣須
与都等伊不可蘇礼

浜成自作のもので、「鼠の家」は穴、「米つきふるひ」は粉、「木を伐りてひき燧り出だす」は火、「四つは」四で、「穴粉火四」即ち「あな恋し」の義だという説明がある。なぞ歌、全のことば遊びである。これも中国詩に留守居の妻が夫を待つ心を隠語で言い表したものがあつて、浜成自身の純然たる創意ではない。わざわざ自作を試み、歌の質というものを全く無視してこのような遊戯歌こそ歌の最高級のものとするこれを、山口博氏は遊楽の精神以外の何物でもなく、これこそ『歌經標式』の意味であり、それは「勝宝以後」⁽⁴⁾といわれる恐怖政治の時代を生きぬく韻晦であった、といわれる。『歌經標式』が韻こそ詩歌の詩歌たるものとしながら韻のみで統一せずに喻にこだわらざるを得なかつたこと、「感鬼神之幽情」「慰夫人之恋心」に見られる歌の認識などが、山口氏の如く考えれば極めて素直に納得がいく。

韻によって始めて詩語となると序文に浜成は言うが、その「異於風俗之言語」と類似対応する「無異俗人言語」という表現が歌体二查体⁽⁶⁾直語の説明にある。「直語」とは例歌によれば、一気に直接的に述べあやがなく屈折のない内容をもつものであるが、『文心雕

龍」に「諺者直語也」とあって華のない鄙俚体（俗体）即ち比喩をもたない意である。⁽²⁴⁾ また、歌体三雜（雅）⁽²⁵⁾ 体五長歌の所で「以直語而成句、都無古事」と述べて「直語」と「古事」を対応させ、さらに「以能顯為実、所顯為喻、喻為古事、實為新意」と述べて「古事」と「新意」を「喻」と「実」で対応させる。「古事」と「新意」の対応は雜（雅）体の半分（六頭古腰新、七頭新腰古、八頭古腰古、九古事意。⁽²⁶⁾ 新意体）を占めて「喻」を問題にして展開される表現論である。右に引いた部分では「新意」は「実」であつて「喻」と対応させているが、六頭古腰新、七頭新腰古の例歌の説明によれば「物」に対する新しい形容辭で、さらに⁽²⁷⁾ 新意体の説明では「是体非是古事、非亦是直語」とい、例歌

旨保美豆婆 伊利努留伊蘇能 倶佐那羅旨 美留比須俱那俱
古不留与於保美

の三句までを「故斂為喻。遠古離直。故曰新意」とい、四・五句を「是其相對」として「是体与古直相似等亦難別」とい、

美那曾己弊 旨都俱旨羅他麻 他我由惠爾 己々侶都俱旨豆
和我於母婆那俱爾

について、「第一二句非是直語。三四句是為直語。以三等句顯於一二句之情。故名新意」という説明からすれば、新意は古事と対応するが直語ではない。作者の創意による表現で、やはり喻的なものである。それは後世に⁽²⁸⁾ 言う序詞の構造でそれに対する解釈態度であると小島氏は言われる。また、「古事」は六阿豆佐由美、七旨羅都由能、阿呼爾与旨、旨侶他倍爾など、枕詞の類をさし、絶えず言いふるされたことばである、とい。この新古の対比は枕詞や序詞など後世の修辞論へさらやかながら文学論を展開しているとの評は小

島氏の言われる通りである。が、これらが引き出されるのは比喩が問題になるからである。新古の対比も喻の意識も中国詩学に基づいたものであつても、浜成にとつては「言隱語露情」という点が問題なのである。なぞ歌を甲第とするのは「こころ」を担つた「ことば」が隠されてあるからであり、「こころ」が露わに表現されないところに価値を見ているのである。ここでは歌はやはり「こころ」に意味があり、それがどのよくな「ことば」という形をとるのかということであるが、「こころ」をそのままとり出すことを意図してはいない。へことばを問題にしようとする。それが韻と喻というとり出され方になったのである。事は逆かも知れない。中国詩学に基づいて韻をとり出したことが「ことば」を問題にすることになりへことばのみに収まらない歌の問題が必然的に「こころ」を問題とすることになったのであろう。

もう一つ韻を離れて内容に關するものが査体七離会にある

何須我夜麻 美祢己具不祢能 夜俱旨豆羅 阿婆遲能旨麻能
何羅須岐能幣羅

を「譬如牛馬犬鼠類一處相会。無雅意。故曰離会。若譴警勿論」と述べ、雑然とものが集められるような歌（離会）は雅意がないが、譴警ならば良いといいうのである。このような数種のものを詠み込むというのは『万葉集』卷十六に見られ、これも言葉遊びである。言葉の遊戯といいう点では同列であるにもかかわらず離会は雅意がないと否定し、譴警は甲第とするのは一見筋が通らぬようであるが、その一線は「言隱語露情」にある。「言隱語」は「喻」と通じる。「雅」はもう一か所、雑体六頭古腰新を「此体雅而亦麗。故曰雅麗」とある。「粹句」（古事喻）が「ひきのぐなる（喻の名）を引き起し」「名

のりその花」(新之物)によつて新意のさまを述べ「花の咲くまで妹にはぬかも」という結句の「へこころ」へと結びついていく、それが雅にして麗だというのであるから、「へこころ」が「直語」としてではなく引き出されることが雅だということである。「風俗(俗人)之言語」に異なるとは直語でなくして「へこころ」を引き出すものということである。

もう一つ、韻に執しているようでありながら意味をとり出しているのは「毎句々頭用同事類」と説明される雑体(聚蝶)がある。例歌は天武の

美与旨能呼 与旨止与俱美弓 与旨等伊比旨 与岐比等与旨能
与岐比等与俱美⁽³²⁾

で、「毎句有吉無凶」「為吉」とある。浜成の表現から聚蝶は否定されているとは断言できないが、後世歌学では同心病として否定されるものである。⁽³³⁾歌体三を雑体とするか雅体とするかで浜成の言わんとする所も微妙に異なつてくる。雅体とすれば句ごとに同事類を並べるのはよいことになるし、雑体とすれば「毎句々頭同事類」は良くなきのだがこの例歌は「吉」を繰り返しているから良いのだといふことになる。「毎句有吉無凶」のことわりは後者らしく思われる。「毎句々頭同事類」は離会・謳警と同じく言葉遊びの一種である。離会と謳警の違いは「言隱語露情」即ち喻の有無であるが、聚蝶の離会との違いは数種のものと同事繰り返しであり、謳警との違いは喻であるか否かである。聚蝶は例歌によれば頭音繰り返しで韻の問題に属するともいえるし、繰り返される事が吉か凶かで歌の是非が判定されるところは歌われる内容(即ちこころ)が問題にされていいる。「ことば」について音を捉えながら「へこころ」を問題にする

『歌経標式』のあり方はここにも窺うことができる。

『歌経標式』のあり方はここにも窺うことができる。韻を重んじ、喻にこだわり、なぞ歌を甲第とする浜成は、山口氏の言われる通り、歌を遊楽の精神によるものとするのであるが、單なる言語遊戯に終始するのではなく、そこに述べんとするもの即ち「へこころ」を言外に意識していたと思われる。「幽情」「恋心」「感慰」という語がそれを示している。それは遙か奥底で「悽愴之意非歌難撥耳」という家持の思いと通じているのではないかと考えるが、これについては論じなければならぬことが多いので今はとり敢えず、右のように言う家持の歌は諸兄の歌集を作ろうとする試みに応ずるものだと言われる中西進氏⁽³⁴⁾の説のあることを指摘し、中西氏の言われる諸兄と家持、山口氏の言われる光仁と浜成、一方は歌集の編纂、一方は歌学書と、政治的圧迫感の中での歌なるものをとり出そうとする点、いずれも中国詩、あるいは詩学を媒介としていること、浜成と家持は同時代人であることなど類似する点の多いことを述べておきたい。

韻による歌病は二国語の異質であるゆえに歌そのものを捉えたとは言えぬが、歌を詩と同列に置こうとしたことが「ことば」を問題にすることになり、それが「へこころ」を引き出した。あるいは引き出そうとした所に止っているのが『歌経標式』であるが、歌をこのように「へこころ」と「ことば」で捉えようとする事がやがて古今序に明確に示される。それは喻を問題にしたことで「へこころ」を浮かび上がらせた『歌経標式』の功績と言つてよいのではないか。その点でこれはやはり歌学書の嚆矢としての意味を十分にもつてゐると言えるであろう。

三

『古今集』序に於ては『歌経標式』が詩の詩たる所以とした韻は全く問題にされない。

夫和歌者、託其根心地。発其華於詞林者也。

やまとたは、ひとのこゝろをたねとして、よろづのことの葉とぞなれりける。

とあって、歌の本質を「心」と「詞」として捉える。これは後世歌論の基本的見解⁽³⁵⁾となつたが、浜成が韻にはじまって「ことば」にかかわり喻を問題にすることで不明確なまま「ことば」がはじき出すへこころ⁽³⁶⁾にかかわっていたのが深化され「心」と「詞」として明確にされている。六歌仙評⁽³⁷⁾も「心」と「詞」を用いてなされ、歌の論評の基準として方法化されている。「心」と「詞」は別々の次元に属するものだという認識に立つてゐるといわれる⁽³⁸⁾が、それ程明確に対象化できたということである。

浮詞雲興。艶流泉涌。其实皆落。其草孤榮。至有好色之家。以此為花鳥之使。乏食之客。以此為活計之謀。故半為婦人之右。難進大夫之前。

いまの世の中、色につき、人のこゝろ、花になりにけるより、あだなるうた、はかなきことのみ、いでくれば、いろごのみのいへに、むもれぎの、人しれぬこととなりて、まめる所には、花すゝき、ほにいだすべき事にもあらずなりにけり。

今の世の歌がだめになつたという捉え方は『歌経標式』と共に通する。しかしそれが「好色之家」「いろごのみのいへ」にあつて「難進大夫之前」「まめる所」に「いだすべき」ものでないのがいけ

ないという点は「慰天人之恋心」とする『歌経標式』とは大いに異なる。そして『古今集』はそれを「人のこゝろ、花になりにけるより」と「こころ」を問題としている。「こころ」を明確にとり出しているのである。

浜成がこだわった論は『古今集』序では六歌仙評が比喩で行われてはいるが、「ことば」と「こころ」の問題としてとり上げられてはいない。『歌経標式』の中で文学論として見るべきものとされ、枕詞や序詞を導き出したかかってはいた部分が『古今集』序では正面から受け継がれてはいない。それはいわゆる修辞論になるもので、「ことば」の問題として存し、その奥に「こころ」の問題はあるのだが、『古今集』序のように「こころ」を明確に対象化し、「心」と「詞」を対比させることで歌の本質を捉えた場合には浮かび上がつて来ないことであった。浜成は甲第と称えたが、なぞ歌など『古今集』序で問題にならぬのも当然であった。

『歌経標式』が韻を問題にしたため、「ことば」がとり出され、結果として「こころ」がはじき出された。『古今集』はその「心」と「詞」を別次元のものとして認識し、その両面から、あるいはからみ合いを問題として歌を捉えた。『歌経標式』はかかる意味で歌学書の塙矢としての意味をもち、『古今集』序ではそれが深められて歌を捉えることが表現行為の本質に迫る一つの方法を示すまでに至つてゐる。

氏⁽¹⁾ 久松潛一『万葉研究史』の冒頭に「万葉集といふ歌集が成立したことは、万葉集の歌から言へば、それに對する研究意識が生じた結果とも見られる。即ち現在見られる万葉集が如何にして成立したかという

第二特集・古代の歌学

- (1) ことは、万葉の歌の蒐集・理解・分類・批判という過程であると言へる」とあってここでは「研究意識」として示され、また、『日本文学評論史古代中世篇』では「撰集を撰する態度の中には批評精神が見られる（中略）殊に万葉集の左注、題詞の中には批評自体を見出すことが出来る」とあって、こちらは「批評精神」という語を用いているが、共に、「歌学」の要素として考えることができよう。
- (2) 万葉集卷19・四二「八一左注。家持歌の結句「いきの緒に思ふ」を「いきの緒にする」と橋諸兄が改めようとして止めたとある。
- (3) 万葉集卷20・四三二七左注以下、各国ごとに拙劣歌は採らず、となる。
- 万葉集卷5・九〇六の左注。
万葉集卷4・五三〇の左注。
万葉集卷1・一五〇の左注および卷1・一九の左注など。また、卷2・一四五左注の極を挽く時の作ではないが歌の意に准疑えて挽歌に入れたという語句や、卷1八三左注の御井で作った歌にふさわしくないというものなど。
- (4) 久松潛一『日本文学評論史・古代・中世篇』第一編・第一章の「一」、撰集態度に現われた批評精神、また小沢正夫『古代歌学の形成』の「第四編 歌集の編集と和歌の分類」など。
- (5) この点については本誌に別項が立てられている。
- (6) 作太郎『国文学全史平安朝篇』など)が、真本が発見されてほぼ定説となつた。
- (7) 特に韻によつた歌病説など「本邦の和歌の上には十中九は無用の理窟で空論といふべく、実地には何の効力もなく、これを遵奉することは行わぬなかつた」(山田孝雄『日本歌学の源流』)、「詩学の模倣より一步もふみ出しておらず歌学書として特に注意すべきほどのものではない」(久曾神昇増補新版『日本文学史・上代篇』)、「作歌のために中国詩学を適用したものであり実際には実用に適しない失敗作である」(小島憲之『上代日本文学と中国文学下』)など。
- (8) 「新意」の語はそのまま中国詩学に用いられてゐるものではないが「古事」あるいは「用事」(古事を用いること)という語および新古の対比という考え方是中国詩学にあり、また「直語」は唐人詩論、『文心雕龍』に見えるという。(小島憲之注¹⁰前載書)

- (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100) (101) (102) (103) (104) (105) (106) (107) (108) (109) (110) (111) (112) (113) (114) (115) (116) (117) (118) (119) (120) (121) (122) (123) (124) (125) (126) (127) (128) (129) (130) (131) (132) (133) (134) (135) (136) (137) (138) (139) (140) (141) (142) (143) (144) (145) (146) (147) (148) (149) (150) (151) (152) (153) (154) (155) (156) (157) (158) (159) (160) (161) (162) (163) (164) (165) (166) (167) (168) (169) (170) (171) (172) (173) (174) (175) (176) (177) (178) (179) (180) (181) (182) (183) (184) (185) (186) (187) (188) (189) (190) (191) (192) (193) (194) (195) (196) (197) (198) (199) (200) (201) (202) (203) (204) (205) (206) (207) (208) (209) (210) (211) (212) (213) (214) (215) (216) (217) (218) (219) (220) (221) (222) (223) (224) (225) (226) (227) (228) (229) (230) (231) (232) (233) (234) (235) (236) (237) (238) (239) (240) (241) (242) (243) (244) (245) (246) (247) (248) (249) (250) (251) (252) (253) (254) (255) (256) (257) (258) (259) (260) (261) (262) (263) (264) (265) (266) (267) (268) (269) (270) (271) (272) (273) (274) (275) (276) (277) (278) (279) (280) (281) (282) (283) (284) (285) (286) (287) (288) (289) (290) (291) (292) (293) (294) (295) (296) (297) (298) (299) (300) (301) (302) (303) (304) (305) (306) (307) (308) (309) (310) (311) (312) (313) (314) (315) (316) (317) (318) (319) (320) (321) (322) (323) (324) (325) (326) (327) (328) (329) (330) (331) (332) (333) (334) (335) (336) (337) (338) (339) (340) (341) (342) (343) (344) (345) (346) (347) (348) (349) (350) (351) (352) (353) (354) (355) (356) (357) (358) (359) (360) (361) (362) (363) (364) (365) (366) (367) (368) (369) (370) (371) (372) (373) (374) (375) (376) (377) (378) (379) (380) (381) (382) (383) (384) (385) (386) (387) (388) (389) (390) (391) (392) (393) (394) (395) (396) (397) (398) (399) (400) (401) (402) (403) (404) (405) (406) (407) (408) (409) (410) (411) (412) (413) (414) (415) (416) (417) (418) (419) (420) (421) (422) (423) (424) (425) (426) (427) (428) (429) (430) (431) (432) (433) (434) (435) (436) (437) (438) (439) (440) (441) (442) (443) (444) (445) (446) (447) (448) (449) (450) (451) (452) (453) (454) (455) (456) (457) (458) (459) (460) (461) (462) (463) (464) (465) (466) (467) (468) (469) (470) (471) (472) (473) (474) (475) (476) (477) (478) (479) (480) (481) (482) (483) (484) (485) (486) (487) (488) (489) (490) (491) (492) (493) (494) (495) (496) (497) (498) (499) (500) (501) (502) (503) (504) (505) (506) (507) (508) (509) (510) (511) (512) (513) (514) (515) (516) (517) (518) (519) (520) (521) (522) (523) (524) (525) (526) (527) (528) (529) (530) (531) (532) (533) (534) (535) (536) (537) (538) (539) (540) (541) (542) (543) (544) (545) (546) (547) (548) (549) (550) (551) (552) (553) (554) (555) (556) (557) (558) (559) (5510) (5511) (5512) (5513) (5514) (5515) (5516) (5517) (5518) (5519) (5520) (5521) (5522) (5523) (5524) (5525) (5526) (5527) (5528) (5529) (5530) (5531) (5532) (5533) (5534) (5535) (5536) (5537) (5538) (5539) (5540) (5541) (5542) (5543) (5544) (5545) (5546) (5547) (5548) (5549) (55410) (55411) (55412) (55413) (55414) (55415) (55416) (55417) (55418) (55419) (55420) (55421) (55422) (55423) (55424) (55425) (55426) (55427) (55428) (55429) (55430) (55431) (55432) (55433) (55434) (55435) (55436) (55437) (55438) (55439) (55440) (55441) (55442) (55443) (55444) (55445) (55446) (55447) (55448) (55449) (55450) (55451) (55452) (55453) (55454) (55455) (55456) (55457) (55458) (55459) (55460) (55461) (55462) (55463) (55464) (55465) (55466) (55467) (55468) (55469) (55470) (55471) (55472) (55473) (55474) (55475) (55476) (55477) (55478) (55479) (55480) (55481) (55482) (55483) (55484) (55485) (55486) (55487) (55488) (55489) (55490) (55491) (55492) (55493) (55494) (55495) (55496) (55497) (55498) (55499) (554100) (554101) (554102) (554103) (554104) (554105) (554106) (554107) (554108) (554109) (554110) (554111) (554112) (554113) (554114) (554115) (554116) (554117) (554118) (554119) (554120) (554121) (554122) (554123) (554124) (554125) (554126) (554127) (554128) (554129) (554130) (554131) (554132) (554133) (554134) (554135) (554136) (554137) (554138) (554139) (554140) (554141) (554142) (554143) (554144) (554145) (554146) (554147) (554148) (554149) (554150) (554151) (554152) (554153) (554154) (554155) (554156) (554157) (554158) (554159) (554160) (554161) (554162) (554163) (554164) (554165) (554166) (554167) (554168) (554169) (554170) (554171) (554172) (554173) (554174) (554175) (554176) (554177) (554178) (554179) (554180) (554181) (554182) (554183) (554184) (554185) (554186) (554187) (554188) (554189) (554190) (554191) (554192) (554193) (554194) (554195) (554196) (554197) (554198) (554199) (554200) (554201) (554202) (554203) (554204) (554205) (554206) (554207) (554208) (554209) (554210) (554211) (554212) (554213) (554214) (554215) (554216) (554217) (554218) (554219) (554220) (554221) (554222) (554223) (554224) (554225) (554226) (554227) (554228) (554229) (554230) (554231) (554232) (554233) (554234) (554235) (554236) (554237) (554238) (554239) (554240) (554241) (554242) (554243) (554244) (554245) (554246) (554247) (554248) (554249) (554250) (554251) (554252) (554253) (554254) (554255) (554256) (554257) (554258) (554259) (554260) (554261) (554262) (554263) (554264) (554265) (554266) (554267) (554268) (554269) (554270) (554271) (554272) (554273) (554274) (554275) (554276) (554277) (554278) (554279) (554280) (554281) (554282) (554283) (554284) (554285) (554286) (554287) (554288) (554289) (554290) (554291) (554292) (554293) (554294) (554295) (554296) (554297) (554298) (554299) (554300) (554301) (554302) (554303) (554304) (554305) (554306) (554307) (554308) (554309) (554310) (554311) (554312) (554313) (554314) (554315) (554316) (554317) (554318) (554319) (554320) (554321) (554322) (554323) (554324) (554325) (554326) (554327) (554328) (554329) (554330) (554331) (554332) (554333) (554334) (554335) (554336) (554337) (554338) (554339) (554340) (554341) (554342) (554343) (554344) (554345) (554346) (554347) (554348) (554349) (554350) (554351) (554352) (554353) (554354) (554355) (554356) (554357) (554358) (554359) (554360) (554361) (554362) (554363) (554364) (554365) (554366) (554367) (554368) (554369) (554370) (554371) (554372) (554373) (554374) (554375) (554376) (554377) (554378) (554379) (554380) (554381) (554382) (554383) (554384) (554385) (554386) (554387) (554388) (554389) (554390) (554391) (554392) (554393) (554394) (554395) (554396) (554397) (554398) (554399) (554400) (554401) (554402) (554403) (554404) (554405) (554406) (554407) (554408) (554409) (554410) (554411) (554412) (554413) (554414) (554415) (554416) (554417) (554418) (554419) (554420) (554421) (554422) (554423) (554424) (554425) (554426) (554427) (554428) (554429) (554430) (554431) (554432) (554433) (554434) (554435) (554436) (554437) (554438) (554439) (554440) (554441) (554442) (554443) (554444) (554445) (554446) (554447) (554448) (554449) (554450) (554451) (554452) (554453) (554454) (554455) (554456) (554457) (554458) (554459) (554460) (554461) (554462) (554463) (554464) (554465) (554466) (554467) (554468) (554469) (554470) (554471) (554472) (554473) (554474) (554475) (554476) (554477) (554478) (554479) (554480) (554481) (554482) (554483) (554484) (554485) (554486) (554487) (554488) (554489) (554490) (554491) (554492) (554493) (554494) (554495) (554496) (554497) (554498) (554499) (554500) (554501) (554502) (554503) (554504) (554505) (554506) (554507) (554508) (554509) (554510) (554511) (554512) (554513) (554514) (554515) (554516) (554517) (554518) (554519) (554520) (554521) (554522) (554523) (554524) (554525) (554526) (554527) (554528) (554529) (554530) (554531) (554532) (554533) (554534) (554535) (554536) (554537) (554538) (554539) (554540) (554541) (554542) (554543) (554544) (554545) (554546) (554547) (554548) (554549) (554550) (554551) (554552) (554553) (554554) (554555) (554556) (554557) (554558) (554559) (554560) (554561) (554562) (554563) (554564) (554565) (554566) (554567) (554568) (554569) (554570) (554571) (554572) (554573) (554574) (554575) (554576) (554577) (554578) (554579) (554580) (554581) (554582) (554583) (554584) (554585) (554586) (554587) (554588) (554589) (554590) (554591) (554592) (554593) (554594) (554595) (554596) (554597) (554598) (554599) (554600) (554601) (554602) (554603) (554604) (554605) (554606) (554607) (554608) (554609) (554610) (554611) (554612) (554613) (554614) (554615) (554616) (554617) (554618) (554619) (554620) (554621) (554622) (554623) (554624) (554625) (554626) (554627) (554628) (554629) (554630) (554631) (554632) (554633) (554634) (554635) (554636) (554637) (554638) (554639) (554640) (554641) (554642) (554643) (554644) (554645) (554646) (554647) (554648) (554649) (554650) (554651) (554652) (554653) (554654) (554655) (554656) (554657) (554658) (554659) (554660) (554661) (554662) (554663) (554664) (554665) (554666) (554667) (554668) (554669) (554670) (554671) (554672) (554673) (554674) (554675) (554676) (554677) (554678) (554679) (554680) (554681) (554682) (554683) (554684) (554685) (554686) (554687) (554688) (554689) (554690) (554691) (554692) (554693) (554694) (554695) (554696) (554697) (554698) (554699) (554700) (554701) (554702) (554703) (554704) (554705) (554706) (554707) (554708) (554709) (554710) (554711) (554712) (554713) (554714) (554715) (554716) (554717) (554718) (554719) (554720) (554721) (554722) (554723) (554724) (554725) (554726) (554727) (554728) (554729) (554730) (554731) (554732) (554733) (554734) (554735) (554736) (554737) (554738) (554739) (554740) (554741) (554742) (554743) (554744) (554745) (554746) (554747) (554748) (554749) (554750) (554751) (554752) (554753) (554754) (554755) (554756) (554757) (554758) (554759) (554760) (554761) (554762) (554763) (554764) (554765) (554766) (554767) (554768) (554769) (554770) (554771) (554772) (554773) (554774) (554775) (554776) (554777) (554778) (554779) (554780) (554781) (554782) (554783) (554784) (554785) (554786) (554787) (554788) (554789) (554790) (554791) (554792) (554793) (554794) (554795) (554796) (554797) (554798) (554799) (554800) (554801) (554802) (554803) (554804) (554805) (554806) (554807) (554808) (554809) (554810) (554811) (554812) (554813) (554814) (554815) (554816) (554817) (554818) (554819) (554820) (554821) (554822) (554823) (554824) (554825) (554826) (554827) (554828) (554829) (554830) (554831) (554832) (554833) (554834) (554835) (554836) (554837) (554838) (554839) (554840) (554841) (554842) (554843) (554844) (554845) (554846) (554847) (554848) (554849) (554850) (554851) (554852) (554853) (554854) (554855) (554856) (554857) (554858) (554859) (554860) (554861) (554862) (554863) (554864) (554865) (554866) (554867) (554868) (554869) (554870) (554871) (554872) (554873) (554874) (554875) (554876) (554877) (554878) (554879) (554880) (554881) (554882) (554883) (554884) (554885) (554886) (554887) (554888) (554889) (554890) (554891) (554892) (554893) (554894) (554895) (554896) (554897) (554898) (554899) (554900) (554901) (554902) (554903) (554904) (554905) (554906) (554907) (554908) (554909) (554910) (554911) (554912) (554913) (554914) (554915) (554916) (554917) (554918) (554919) (554920) (554921) (554922) (554923) (554924) (554925) (554926) (554927) (554928) (554929) (554930) (554931) (554932) (554933) (554934) (554935) (554936) (554937) (554938) (554939) (554940) (554941) (554942) (554943) (554944) (554945) (554946) (554947) (554948) (554949) (554950) (55495

『歌経標式』の和歌観

- (20) は「謬」の誤りと小島憲之氏（前載書）はいわれるが、今いずれとも定めかたいので本文通りに記しあく。
- (21) 小島憲之氏前載書に『玉台新詠』の「蒿砧詩」が挙げられている。
- (22) 「歌経標式の意味——勝宝以後と遊楽之精神——」（『日本文学の伝統と歴史』）
- (23) 「「査」を「杏」の誤りとして拗体とする説（小西甚一前載書）、「査」を「差」とする説（吉田幸一前載論文）、浮木の如く不定の姿とする説（山田孝雄前載書）など諸説あるが、いずれも雅でなく不備なものであることになる。
- (24) 小島憲之前載書
- (25) 抄本系の諸本には「雅体」とあり(七頭新腰古の説明に「凡作歌之體、背於此者、為査体」とあって、査体（ふぞろい、不定、不備のもの）と対すると考えれば雅体となる。吉田幸一・山田孝雄説は雅体とする。
- (26) 小島憲之前載書に「竹相園本「直」をすべて「皿」によるは誤り、抄本系の本文」によるとして「皿」を「直」としている。

注(24)に同じ

- (31) (30) 三八三二・三八三三「詠數種物歌」など。他に三八三八・三八三九「無心所著歌」も數種のものを詠み込みつゝ歌として意味を成さぬものである。
- (32) 『万葉集』1・一二七とは歌句異なる。
- (33) (34) 『孫姫式』和歌八病の第一同心に「一篇之内再用同詞（辞）」、「詞人用心恨其同之」とあり、後世の和歌式の歌病が実作の世界でほとんど用いられぬなかで、歌合せ判詞に難点として唯一用いられたものである。（小沢正夫前載書）
- (35) (36) (37) (38) (39) (40) 『絶唱三首』の誤り」（『成城万葉第一六号』）
- (41) 久松潜一『日本文学評論史・総論・歌論・形態篇』
- (42) 小沢正夫前載書
- (付) 鈴木日出男「万葉から古今へ」（『日本文学全史2中古』）
- (付) 『歌経標式』は『日本歌学大系』『古今集』は『岩波古典文学大系』によった。